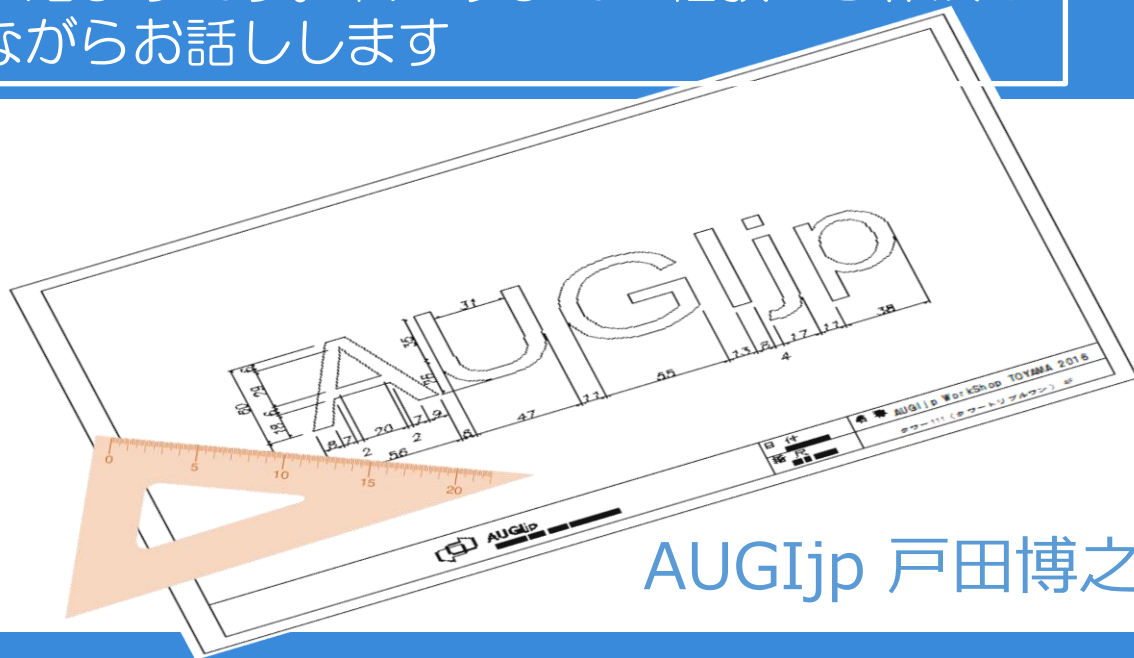


作図標準とカスタマイズの 最初の一歩

セッションの概要

あなたの会社では「作図標準」は決められているでしょうか？
作図標準を定め、標準に沿って繰り返し行っている作業を洗い出す事で
様々な作業支援ツールや自動化ツール適用の可能性も見えてきます。そ
こから色々なカスタマイズの始まりです。私の今までの経験から作成し
たプログラムも一部紹介しながらお話しします



AUGIjp 戸田博之

「作図標準」見たことありますか？

作図標準

品質保全

ガイドライン

そもそも作図標準って何？

作図標準とは、

図面作成者が作業を迷わず進めるための規則です。

図面作成者の作業を束縛するものでもあります、

複数の人が集まって作業を進める以上、

何らかのルールを適用することは避けられません。

また、作図標準は、CADのアプリケーション知識

だけで出来ますが、成果物の品質に影響する実作業は

アプリケーション知識だけでは出来ません。

作図標準に求められるもの

私は、できるだけ縛りがなく、ある程度自由に作業できるほうが嬉しいものですし、標準に沿うために余計な手間をかけなくちゃならないなんて……と感じることもあります。

標準やルールのあることは、必ずしも喜ばれるばかりではありません。それなのに、なぜ作図標準などというものがあるのでしょうか。

そうしたいやな思いをする以上に作図標準には、メリットがあります。

品質から作図上の作業を均質化して管理でき、図面品質を保てるというメリットがあります。

例えば、 「ブロックを使用して作図する」

例えば、「ブロックを使用して作図する」という図面作成に関する標準があれば、同じ物を再度作成しなくてもよくなります。また、これに加えて「あとから部品の数量を数える」というルールがあったとします。

このとき、各設計者がこのルールに則っているかどうかを確認しておけば、極めて単純化できます。

このように、図面作成の中で、ルールがなければその都度、手間が掛かります。ルールを設けることで、ルールに沿っていることを確認すれば済むようになり、

作業の難易度や複雑度が下がり、トラブルを未然に防げるようになります。

作図標準のメリット

一方、設計者の視点から見ても、作図標準にはメリットがあります。1つに、作業の進め方が分かりやすくなることが挙げられます。

こうした作図手順の流れが標準として定められていない図面では、個々の図面作成者は、何をどうしていいか、それぞれの場面でいちいち悩んでしまうことになります。

この流れを標準として明示することで、このような悩みから解放されます。さらに、作業の進め方を分かりやすくすると同時に、作業を楽にしてくれる可能性も秘めています。

“割が合う”

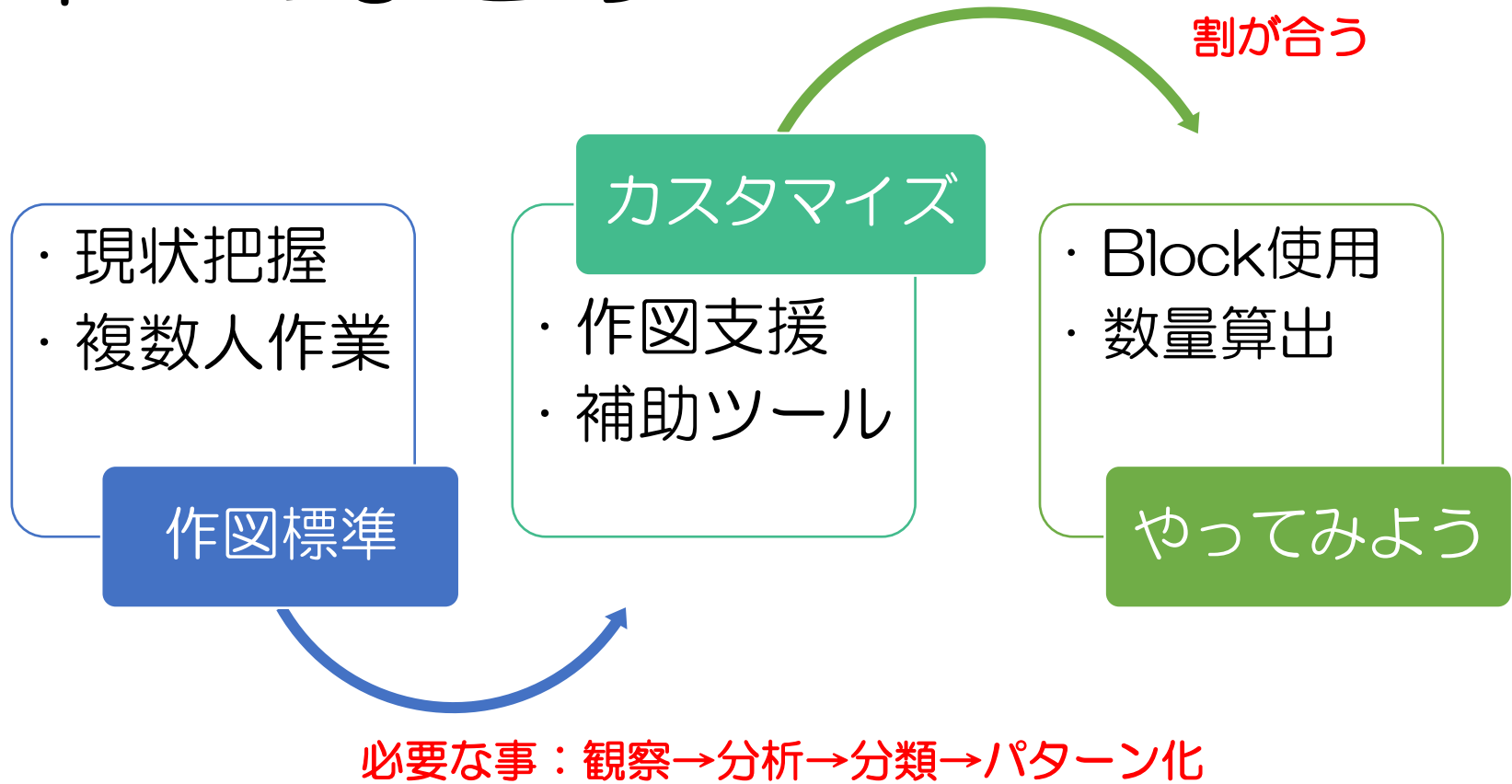
標準が定められていることで、さまざまな作業支援ツールや自動化ツールの適用可能性が広がります。

作業の流れが毎度異なるようでは、こうしたツールを作成したとしても使われる機会が限られますが、作業が標準化されていることで、ツールを作る“割が合う”ようになるわけです。

もし皆さんが、標準の定められていない図面に携っているのであれば、身近な範囲から標準化への取り組みを始めてみてはいかがでしょうか。

適切な標準化は、きっとあなたやあなたの周りの仕事を円滑にしてくれるはずです。

本日のまとめ



私の経験談

